

新市建設の基本的理念

1、まちづくりの基本的方針 ～水と緑の自然共生型のまちづくり～

(1)「水」と「緑」の恩恵

水は命の源であり、特に新市のエリアに胎内川水系の全てが含まれることを考えると、正に母なる川「胎内」が新市のシンボルになると言えます。

「たいない」はアイヌ語で「清い水の流れ」を意味し、この清流が豊かな自然と深い歴史を育んできました。地形に見る稀な特徴や豊富な地下資源、水害と戦ってきた先人の偉業なども、胎内川がもたらしたこの地域独特の恩恵と言えます。

両地域のエリア内には、磐梯朝日国立公園、胎内二王子県立自然公園、自然環境保全地域などの指定があり、特に胎内渓谷の新緑・紅葉は、県内外の多くの人々を魅了するとともに、河岸段丘上の平地や広大な扇状地に広がる緑の水田は、先祖から受け継いだ活力と恵みを今も変わらず与えてくれます。

(2)自然を活かす「自然共生型」のまちづくり

他の地域のまちづくりにおいても、自然を基調とするところは少なくありません。

両地域の豊かで特徴的な自然に着目しながら、ここでしかできない産業や交流に活用し、住む人にやさしく、かつ快適で、また訪れる人にも潤いを提供するという、自然と人との特色ある関わり方ができるかが大きなポイントとなります。

「日々恩恵を受けている自然だからこそ、大切にしていこう」という意識を高めながら、自然とそこで生活する人々が「共生」するためのまちづくりを進めていかなければなりません。

(3)地域版「三位一体」の推進体系

アンケートの結果では「自然環境」、「産業振興」、「福祉・保健」に対して大きな期待が寄せられていることがわかります。

「自然環境」を守り育むには、郷土の歴史や文化や貴重な地形、生態系を知り、その後のまちづくりに活用するために想像力を養わなければなりません。そのためには教育環境を充実させ、生涯学習を盛り込み、住民の多くが親しみと理解を得るための施策を取り入れることが不可欠です。

「産業振興」は、雇用問題と深く関わりがあります。自然や地域の特性を活かした観光産業をはじめ、地場産業や複合的産業の育成・振興、周辺環境にこだわりを持つ起業者を支援することなどにより、地域の魅力をアピールしながら就労の機会を拡大し、活性化を進めなくてはなりません。

また「福祉・保健」は、安全・安心・快適という言葉に結びつくことから、自然を活用した憩いの場づくりをはじめ、生活都市基盤の整備やIT（ 8）を活用したサービス網の整備推進、防災・防犯対策などを含めて一体的に考えることができます。

これらは、まちづくりの基本計画を策定する上で「三位一体」で推進されるべきものですし、施策体系を考えたときの方向性を示すものといえます。

2、新市の将来像

水と緑、山、川、海、その中に育まれた深い歴史と文化を活用しながら、快適で安心して暮らすための施策や基盤等の整備が必要とされています。また、自然と産業の連携を模索し、創造性の高い地域を目指すことが要求されていることなどを一体的に考え、新市の将来像を次のとおりとします。

【新市の将来像】

自然が生きる、人が輝く、交流のまち

～自然共生型アメニティ（ 9）都市を目指して～

【用語解説】

- （ 8）IT...インフォメーション・テクノロジー（information technology）の略。情報通信分野に関する技術を利用する方法のこと。たとえば、インターネットを使って情報を集めたり、電子メールで人と連絡をとったりすることなどが挙げられる。
- （ 9）アメニティ...豊かな緑、さわやかな空気、静けさ、清らかな水辺、美しい町並み、歴史的な雰囲気など、身の回りのトータルな環境の快適さ。

3、新市建設の基本目標

【基本目標】

- (1) 自然と文化を大切にし、未来を創造するまち
- (2) 住む人が安心・快適に暮らせるやさしいまち
- (3) 活力と希望を生み、交流を育むまち
- (4) 新しい改革にも柔軟に対応できる行政を推進するまち

(1) 自然と文化を大切にし、未来を創造するまち

【主な施策の方向】

- ・水と緑を守り、地域の自然と地球の環境を考えるまちづくり
- ・緑のステージで、いきいきとした子供たちと未来を育むまちづくり
- ・歴史と文化を再発見し、新しい情報発信と国際交流を促進するまちづくり
- ・自然と親しむ生涯学習、自然を満喫できる生涯スポーツのまちづくり

(2) 住む人が安心・快適に暮らせるやさしいまち

【主な施策の方向】

- ・自然と共生できる機能的で快適な都市基盤を有するまちづくり
- ・憩いの場や住宅地を水と緑で演出するまちづくり
- ・心のふれあう福祉と子育て支援のまちづくり
- ・元気な家族を応援する保健と医療を推進するまちづくり
- ・防犯・防災に配慮した安全で、安心して暮らせるまちづくり

(3) 活力と希望を生み、交流を育むまち

【主な施策の方向】

- ・農・工・商業の基盤整備とネットワーク化を促進するまちづくり
- ・自然と観光事業を一体的に考え、ツーリズムの拠点となるまちづくり
- ・新しい活力を生みだす産業育成と雇用を促進するまちづくり
- ・農村環境を地域間交流に活用し、活力と定住を生むまちづくり

(4) 新しい改革にも柔軟に対応できる行政を推進するまち

【主な施策の方向】

- ・新市の計画を推進するための行政基盤を備えたまちづくり
- ・新制度や住民ニーズに対応するため、更なる行政改革を推進するまちづくり
- ・積極的な情報提供と市民参加型（パートナーシップ）行政によるまちづくり

4、地域別の整備計画

両地域には豊かな自然はもとより、都市的機能、優良農地、保養・観光施設など、コンパクトでありながらも地域内に魅力的な機能がバランスよく揃っています。両町村の合併を考えたとき、都市部の「一機能強化型」の合併とは多少異なり、多角的な機能が広く分散していることがむしろ特色といえます。

これらの機能を大まかなゾーンとして設定することは、効率的なまちづくりには欠かせませんが、基本目標を達成するためには、各ゾーンがその機能を補完しあうことができる「コンパクトシティ」型都市（10）をイメージしながら、地域の連携・協力を図るものとします。

(1) 農業「美味しいもの生産・提供」ゾーン

中条	乙	築地	黒川	胎内
----	---	----	----	----

新市となるエリアの中には、数多くの農産物が生産されており、首都圏をはじめ各地で高い評価を得ています。

平野部では、基盤整備の行き届いた水田で栽培される良質なコシヒカリをはじめ、有機・低農薬の特別栽培米（特裁米）や加工食品用の大豆などが生産されています。このエリアでは、美しい田園風景を保全しながら、今後も生産性の高い稲作を中心に、高品質良食味米、麦・大豆などの生産拡大を図っていきます。

【用語解説】

(10) コンパクトシティ型都市...機能の集積とコンパクト化を特徴とする都市モデル。

重装備のクラスター（機能分散）型都市とは違い、過大なサービスはなく、身近な多種多様な機能の相乗効果により快適さを追求する都市タイプ。

また、黒川地区の蔵王山麓では「フルーツパーク」(11)の整備が進んでおり、完成後は観光事業とタイアップした新しい農業スタイルとして、今後の運営に期待が寄せられています。

海岸部の砂丘地では、畑作・園芸・畜産が盛んです。ねぎ、にんじん、大根を中心とした畑作物をはじめ、果樹、チューリップ球根、葉たばこなどは県内有数の産地であり、今後も栽培技術の高位平準化を図り、市場価値の高い産地づくりをしていきます。

また胎内地区では、付加価値の高い胎内米のほかに、畜産も盛んで、黒毛和牛、胎内黒豚、ジャージー牛(12)を生産しています。そのほか、そば、山菜を胎内高原ビール園等の地元観光施設で提供していくとともに、更に特産品としての加工・開発を推進し、県内外の小売店への販路拡大を図ります。

このように新市は新潟県屈指ともいえるおいしい食材の宝庫であり、今後も農業と観光を密接にリンクさせながら、地産地消と独自ブランドによる商品化を進めていきます。

また、胎内・大長谷地区では自然環境をアピールし、体験農業ができる制度・施設を整備し、人口流出や離農に伴う農地の荒廃を防ぐ施策を実施します。これは同地域の活性化を図る手段として、かつ地域間交流の軸として観光の各ゾーンと密接な連携を図るものとします。

(2) 工業「活力と躍動の創造」ゾーン

中 条	乙	築 地	黒 川	胎 内
-----	---	-----	-----	-----

新市のエリア内にはクラレ、日立製作所の大手企業の工場があるほか、中条地区の中核工業団地を中心に、黒川地区、胎内地区にも工業団地が設置されています。

【用語解説】

- (11) フルーツパーク...黒川村蔵王に完成した県営農地開発事業に資するため、黒川村が村営で実施した果樹の実験ほ場。ぶどう、もも、さくらんぼなどを栽培。県営農地開発事業により整備された50haの農地は第3セクターで運営され、グリーンツーリズム型の体験型農業推進と、付加価値の高い加工ぶどうの生産を行う。
- (12) ジャージー牛...イギリスのジャージー島で純粋繁殖された牛の種類で、イギリス王室御用達のミルクをつくるために改良された乳牛。コクのある舌ざわりとまろやかな酸味はジャージー種ならではの特徴。黒川村では、畜産団地において飼育されており、牛乳、ヨーグルト、アイスクリームなどを加工販売している。

胎内川流域に造成された約100haの工業団地は、いずれも地盤のよさ、水源の豊富さに加え、日本海東北自動車道の中条インターチェンジの供用開始による交通の便に優れています。

特に、中条町は工業の集積地としての数々の実績とS I U C新潟校の誘致などの積極的な取組みが評価され、地域振興整備公団（現：独立行政法人中小企業基盤整備機構）により「新潟中条中核工業団地」が造成されています。中核工業団地は国際的、先進的というイメージから「テクノキャンパス」と呼ばれており、高い技術と生産性を発揮できる空間として、引き続き国・県とタイアップしながら工場誘致活動を展開していきます。

中核工業団地の笹口浜地区は、自然環境にも恵まれていることから企業の研究機関の設置を検討するとともに、胎内地域の栗木野地区は、地場産業の育成機関や起業家支援施設の設置など、いずれも産官学一体となった取り組みを行いながら、地域経済の活性化と雇用機会の拡大に努めます。

また、経済情勢が依然低迷する中、地域内で一定の需要・供給を確保する上でも地元・観光産業や農業とタイアップした産業の創設を併せて考えていきます。

（3）商業「いい品・いい笑顔提供」ゾーン

中 条	乙	築 地	黒 川	胎 内
-----	---	-----	-----	-----

商業ゾーンとしては、中条地区の国道7号沿線及び本町商店街を中心とする市街地の二つのゾーンがあります。国道沿線には大型スーパーが進出しており、近年、チェーン店など各種専門店も開店しています。また本町地区は、沿道区画整理事業も完成し、より魅力的な商店街を目指して専門店同士の連携が期待されます。

今後は、隣接する2つのゾーンを機能的にリンクさせていくために、都市計画道路の整備が不可欠とされています。

併せて、国道沿線の商業地域では、周辺環境との調和に配慮した拠点づくりを行うとともに、新市のエリア以外からの集客力もあることから、地元の農産加工品や付加価値の高い特産品の取扱店の拡大とアンテナショップ（13）的な情報発信ポイントを設置します。

【用語解説】

- （13）アンテナショップ…元々メーカーなどが、新商品を試験的に売り出す小売店舗という意味で、市場の動向を探るために経営する店。首都圏や観光地など、ターゲットとなる顧客が多く集まりそうな場所に出店し、作り手の業者が直接最終消費者の反応を探る。

これは日本海東北自動車道の中条インターと、エリア最大の観光地である胎内リゾートの間のオアシスにもなりえることから、観光・交流をひとつの軸として周辺商店街や農産物加工業の活性化、雇用の促進、若者定住などの相乗効果を期待するものです。

(4) 観光・レクリエーション「リラックスといやし」ゾーン

胎内リゾートゾーン

中条	乙	築地	黒川	胎内
----	---	----	----	----

胎内川の中流域から上流域にかけては、既に胎内スキー場、胎内パークホテルをはじめとする胎内高原・奥胎内の観光ゾーンが形成されており、地域外からも数多くの観光客が訪れる、県内でも有数の観光地となっています。

特に、黒川村が設置した村営・ロイヤル胎内パークホテルは、欧風の洗練されたデザインがリゾート気分を演出します。今後も国際会議や全国規模のシンポジウムを開催・誘致するとともに、平成16年オープンした「胎内自然天文館」と、全国的にも注目を集めるまでになった「胎内星まつり」の拡充・PRをはじめ、各種イベントを開催するなどして誘客を促進します。

また、ツーリズム運動の高まりに対応した、滞在型・体験型リゾートとしての各種事業を展開します。特に、奥胎内渓谷においては、平成17年完成予定の奥胎内野営場宿泊休養施設(14)を中心としたネイチャーガイド(15)の実施や専門員を配置するなどして、豊かな自然をアピールしていきます。胎内地区については、自然観察・体験農業施設などの国内外のツーリズム運動を受け入れ、国際交流や地域間交流とともに、地域の活性化を図るために各種事業を展開します。

【用語解説】

- (14) 奥胎内野営場宿泊休養施設...飯豊連峰の登山者の安全確保と自然公園内の監視・保全、また自然学習の拠点として、現胎内ヒュッテ脇に建設が進む宿泊施設。地上4階、地下2階で、収容人員92名。平成16年秋完成予定。
- (15) ネイチャーガイド...自然が豊かな場所でその土地の生態系を教えてくれたり、自然の中で植物や動物などの説明をしてくれたり、豊かな自然を守り育てるにはどうしたらよいかを教えてくれるガイドの人たち。

リバーサイドゾーン

中 条	乙	築 地	黒 川	胎 内
-----	---	-----	-----	-----

母なる胎内川は、上流域から下流域まで、自然と親しみ、人と人が交流できる家族向けのスポットが点在しています。

その中で、中条地区のリバーサイドパーク、胎内地区の夏井河川公園は、直接川原に足を入れることが可能ですし、中流域、下流域にはサイクリングロードも整備されています。

その流域の中心・扇状地の扇の要に位置する樽ヶ橋公園周辺は、緑深い景勝地でもあり、胎内観音、クアハウス胎内、樽ヶ橋遊園などの施設が配置され、両地域の住民にとって憩いの場となっています。

今後も、河川敷や流域において水に親しむことのできる公園やスポットを配置し、親子が安全にまちづくりの基調である胎内の「水」に親しめるようにするとともに、ランニングコースやサイクリングロード、遊歩道を整備し、市民が参加できる各種イベントを実施していきます。

白砂青松ゾーン

中 条	乙	築 地	黒 川	胎 内
-----	---	-----	-----	-----

乙・築地地区の海岸線は、15kmの砂浜と松林が美しい地域です。貴重な海浜植物の宝庫でもあり、自然緑地と砂浜の保全を基本としながら、海洋レクリエーションのゾーンとして位置付けられてきました。特に、美しい夕日を見ることができると呼ばれる国道345号は「日本海夕日ライン」と呼ばれており、高速道路からのアクセスにも恵まれています。

加えて、はまなすの丘、乙宝寺、少年自然の家、荒井浜森林公園、親鸞聖人、村松浜海水浴場のほか、平成16年度に完成する「長池公園」を新たな名所として、白砂青松の自然に覆われたスポットが南北に点在しています。

このゾーンは、B & G海洋センター艇庫を中心とした海洋スポーツの拠点として、また塩の湯温泉・トレーニングセンターを中心とした気軽に疲労回復や健康増進運動を楽しめる場所として、近隣地域を含めた人々の利用が期待できます。

また、海浜や松林を散策、ジョギングできるコースを整備しながら、各スポットやリバーサイドゾーンとの連絡を可能にするるとともに、B & G艇庫周辺の整備・充実や、短期間に2万人を集客する「チューリップフェスティバル」を中心として長池周辺のイベントや森林空間をPRしていきます。

(5) 文教「歴史ロマンと未来育成」ゾーン

中 条	乙	築 地	黒 川	胎 内
-----	---	-----	-----	-----

中条・黒川地区と胎内地区の間に位置する櫛形山脈・蔵王山塊のエリアは、リバーサイドゾーンと同じく市民憩いの場になることはもちろん、文化施設や歴史関連のスポットが点在していることから、学びのゾーンとして位置付けます。

櫛形山脈の北端に位置する鳥坂山は板額御前ゆかりの地で、ハイキングコースは櫛形の山々に点在する史跡や見どころを結んでいます。そのほか、山麓には、S I U C新潟校、N I 友好会館、国際交流公園、森林公園、陶芸研修所、白鳥公園、シンクルトン記念公園などの施設が既に整備されています。

今後も、ハイキングや散歩を安全に楽しみながら中世のロマンに思いを馳せることができるように整備を図るとともに、エリア全域を公園として位置付け、学び、憩い、交流を創造する場として各スポットが機能的にリンクするようソフト事業を展開していきます。

(6) 住居「安心快適暮らし」ゾーン

中 条	乙	築 地	黒 川	胎 内
-----	---	-----	-----	-----

市街地、またその周辺地域では、その利便性を活かし住宅環境の整備が進められています。

中条地区でも、国道7号周辺や西中央線・あかね通り周辺を中心に宅地化が進んでいますし、黒川地区でも前山台団地が整備されています。また公営住宅は、中条地区において順次建替えにより近代的な住環境の整備が進められています。

今後は中核工業団地に企業立地に伴う住宅需要が見込まれることから、市街地周辺において住宅地の確保が必要です。これらの整備の条件としては、市街地や商業地域とのアクセス、下水道の整備をはじめとする都市基盤の充実はもとより、緑地などに配慮しながら開発・整備を進めていきます。

また農村地域においては、市街地との著しい格差が生じないこと、過度の開発により自然が破壊されないことを念頭に、地域住民の要望を聴取しながら生活基盤や住環境の整備を実施していきます。

